

— 臨床 —

化粧品による接触性口唇炎および皮膚炎と考えられた1例

芳澤享子, 船山昭典, 三上俊彦, 新美奏恵, 小野由起子, 齊藤 力

新潟大学大学院医歯学総合研究科顎顔面再建学講座組織再建口腔外科学分野 (主任: 齊藤 力)

A case of contact cheilitis and dermatitis probably due to cosmetics

Michiko Yoshizawa, Akinori Funayama, Toshihiko Mikami, Kanae Niimi, Yukiko Ono, Chikara Saito

*Division of Reconstructive Surgery for Oral and Maxillofacial Region, Department of Tissue Regeneration and Reconstruction, Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences.**(Chief: Prof. Chikara Saito)*

平成 24 年 10 月 2 日受付 平成 24 年 10 月 15 日受理

Abstract :

We report a case of contact cheilitis and dermatitis probably due to cosmetics. A 37-year-old female first visited because of itching and reddish swelling of her lips. After that, small blisters had been prominent on lips and erythema and papules appeared on neck and forearm. She showed a positive reaction to foundation which she had used in patch testing. She stopped using this cosmetic then, her cheilitis improved within several days.

Key Words: contact cheilitis, contact dermatitis, cosmetics

抄録 :

私たちは化粧品が原因と思われた接触性口唇炎および皮膚炎の1例を経験したので報告する。患者は37歳, 女性で, 口唇に搔痒感を伴う発赤, 腫脹, 小水疱を主訴に当科を初診した。初診時上下唇にびまん性の腫脹, 発赤, 接触痛を認め, その後上下赤唇縁とその周囲に多数の小水疱や頸部および前腕部に紅斑と丘疹が出現した。パッチテストで患者が使用していた化粧下地が陽性であり, その化粧品の使用を中止したところ症状は数日で改善した。

キーワード: 接触性口唇炎, 接触性皮膚炎, 化粧品

【緒 言】

口唇は皮膚と粘膜の移行部であるが, 皮膚に比べて角化層が極端に薄く, 皮脂腺を欠くため, 外的環境からの防御が手薄で, 皮膚と比べ非常に敏感な部位である^{1,2)}。そのため種々の原因によって口唇炎が生じる¹⁾が, その原因までは解明されずに保湿剤や副腎皮質ステロイド外用薬で漫然と経過をみるだけに留まってしまう症例も多い³⁾。今回私たちは化粧品が原因と思われた接触性口唇炎および皮膚炎の症例を経験したので報告する。

【症 例】

患者: 37歳, 女性

初診: 2009年10月

主訴: 口唇の発赤, 腫脹, 搔痒感

既往歴: 27歳時に子宮頸癌, 35~36歳時に喘息に罹患した。アトピー性皮膚炎, 食物アレルギーの既往はない。

家族歴: 特記事項なし

現病歴: 2009年6月頃から口唇に搔痒感を伴う発赤, 腫脹, 小水疱が出現したため, 同年8月上旬から近医皮膚科を2か所受診し, 副腎皮質ステロイド外用薬, 抗菌外用薬, および抗アレルギー薬を処方されるも症状は改善しなかった。同年8月下旬にさらに別の近医皮膚科を受診したところ, 検査結果よりカンジダ陽性であったことから, 抗真菌外用薬と抗真菌内服薬を処方されたが, 口唇の発赤と腫脹は増悪し, その後やや改善はしたものの症状は消失しないことから, 同年10月上旬に当科を初診した。

初診時現症:

全身所見: 身長161cm, 体重45kg, 全身状態は良好